

町史だより

西原の「よば」その④

子どもたちの遊び

ジメジメとした梅雨が明け、カーチー(南風)が吹くと、沖縄では本格的な「夏」が始まります。みなさんは今年の夏をどう過ごしますか?暑いからといってエアコンが入った部屋にこもらず、外に出て手足を思いっきり伸ばして遊びましょう。そこで今回は、昔の「遊び」を紹介したいと思います。

1 キーヌブイ(木登り)



キーヌブイ

木登りをする木はたいがいガジマル(ガジマン)でした。ガジマルの枝は弾力があり、横に伸びる性質があります。子どもたちはそれをうまく利用し、枝を揺すったり(上写真)、馬乗りになって遊びました。また、ガジマルの長いヒジ(気根)を編んでブランコにしたり、ヒジを枝から枝へ張

り渡してヤックワ(矢倉)を作りました。そこでガジマルの葉を丸めてビービー鳴らして遊びました。

2 サンサナートワイ(セミ捕り)

町内ではセミのことをシーミーといいますが、その種類によってシーミーグワ(和名クロイワニイニイ)・ギージャー(ナービカチカチーともいう) 和名: アブラゼミ・サンサナー(ソツソヤーともいう) 和名クマゼミ・クーワーグワ(クークワクーワー・シーワーなどともいう) 和名クロイワツツク)と二つに名前がついています。



サンサナー(和名:クマゼミ)

子どもたちはそれらのセミを捕まえるために様々な道具を作りました。例えば、竹竿の先に針金の輪を取り付け、クーバー(クモ)の巣をからませたもの、竹竿の先にバサナイ(バショウ)やサンニン(ゲットウ)の若葉を巻きつけたものがありました。捕らえたセミは羽を半分に切ったり、胸のあたりを糸でくくって逃げないようにしました。食料事情が

悪いときには、セミを焼いて食べていたそうです(棚原・安室・小橋川)。

3 カンジャーオーラシエー

町内ではキノボリトカゲのことをカンジャー・カラミクエー・カンジャヤーソー・マール・ジューモー・ウワータなどと呼んでいます。このトカゲは非常に強く、自分のなわばりに侵入するすべてのものを攻撃します。子どもたちはその習性を使って、トカゲ同士をオーラシエー(けんか)させ、ときにはトウイ(ニワトリ)やウワー(ブタ)とも闘わせました。弱ったトカゲにコーレグス(トウガラシ)を食べさせたり、フーチパー(ヨモギ)のにおいをかがせると元気になったといえます。



カンジャー(和名:キノボリトカゲ)

4 カラキジ(川遊び)

コンクリートに改修される以前、町内の川には様々な動植物が生息していました。そこは子どもたちにとって絶好の遊び場でした。川に①飛び込んだり②犬かきで泳いだり③シーミーといって水の中にもぐったり④取組み合いをして、相手を水の中に押し込むクミンチ

エーという遊びをしました。また、ターイユ(フナ)やタナゲー(イビ・シエーグワ)などというカワエビ、ガニ(カニ)、トンピーラー(トニー・トーンピー・トン



トンピーラー(和名:闘魚)

ピーなどともいう(和名:闘魚)なども捕まえて遊びました。トンピーラーはビール瓶などで飼い、友だちのトンピーラーと闘わせました。

今のように娯楽施設の少なかった頃、子どもたちは近くの山や川、動植物をうまく利用して遊んでいました。今回紹介した「遊び」はほんの一部です。みなさんが知らないユニークな「遊び」がまだまだたくさんあるはずですので、身近にいる先輩方から遊び方を聞いて、夏休みにぜひ挑戦してみてください。

参考文献

- 『沖縄大百科事典』沖縄タイムズ社編
- 『佐敷町史』2 民俗 佐敷町史編集委員会編
- 『西原町史』第四卷 西原町教育委員会編
- 『西原町の自然』西原町教育委員会編